



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 經濟論叢 1940, 50(1): 139-140

ISSUE DATE:

1940-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/131337>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號一第卷十五第

月一年五十和昭

論叢

波動內在性の分析……………文學博士 高田 保馬

東亞綜合體の原理……………經濟學博士 谷 口 吉 彦

時 論

華興商業銀行券の機能……………經濟學士 德 永 清 行

研 究

ナチス社會主義に於ける勞働觀……………經濟學士 中川與之助

ドイツ封建制_{末期に於ける}保險機構の變容……………經濟學士 佐 波 宣 平

下請制工業に於ける最近の變化……………經濟學士 田 杉 競

聖トマスの法と愛について……………經濟學士 澤 崎 堅 造

說 苑

財閥的大コンツエルンに就て……………經濟學士 大 塚 一 朗

附 錄

彙 報

外國雜誌論題

彙報

經濟會部

○教授八木芳之助氏は十二月十五日付を以て企畫院委員被仰付

經濟學會

○十二月例会 十二月十二日(火)午後六時より樂友會館に於いて開催。次の報告が行はれた。

一、アウグスチヌスの共同體思想 澤崎 堅 造氏

中世のカトリシズムは五世紀のアウグスチヌスと十三世紀のトマス・アクイナスとを以てその主たる二大傾向を代表するとなし、先きにトマスの共同體思想を見たからには、こゝに自らアウグスチヌスのそれを見る順序になつたとし、まづ時代、生涯について述べ、それから共同體の構成については、神の國と地の國との對立、その現實的な交錯狀態としての地上の神の國——それを人體、家族、國家、教會の各々について見た。共同體の發展については、彼の有名な時間論、歴史論の一端を窺ひ、その歴史哲學に基く創造、現史、終末に關する所論を紹介し、共同體の發展とは實は現在的・終末的なことを結論した。

二、下請制工業に於ける最近の變化 田 杉 謙 師

詳細は本號登載の論文を參照ありたし。

當日の出席者—大塚・堀江・穂積・佐波・白杉・青山・田杉・出口
の諸先生、菊田・青盛・澤崎・馬場・鈴木・堀江(英)・山崎・澤村・辻
の諸氏。

○會員動靜

同好會

○九月十八日(月)座談會「プリント問題に就いて」午後六時半より
樂友會館に於いて開催。

石川、柴田兩教授、學生約二十名出席。先づ先生方よりプリント廢止に關する熱意を述べられ、一般の協力を所望せらる。學生側からも現行制度の不合理を指摘しその他種々質問の交換ありて九時半散會。

○九月廿五日(月)勤勞報國隊參加者慰勞會

石川、柴田、出口、田杉の諸先生、岡島、中岡、中瀬、桑原、畠山、木島、高原、西川、谷口の諸君及び委員、計十八名。

食後各參加者より夫々報告感想を述べられ、今後の問題につき種々議論あり熱狂裡に十時半散會。

○十月十日(火)攝津耶馬溪ハイキング。

青山先生他二十六名約五里の行程に秋の景趣を求めて散會時に午後五時。

○十一月二日(木)座談會「東亞民族論」

午後六時半より樂友會館に於て、高田教授出席、學生約六十名。先づ先生より約半時間に亘り、意見を述べられ、種々の質問ありて盛會裡に十時過散會。

○十一月三日(明治節)秋季小旅行醒ヶ井見學。

佐波先生外學生六十一名。式後出發せし爲、午後二時醒ヶ井養鰐場到着。約一時間に亘る技師の説明を受け、秋晴れの佳日に相應しき一日であつた。